

令和元年度(2019年度) 第1回 函館市観光アドバイザー会議 会議録(要旨)	
開催日時	令和元年(2019年)6月19日(金) 18:00~19:50
開催場所	シエスタハコダテ4階 Gスクエア 多目的ホール
出席委員	奥平座長, 池ノ上委員, 角委員, 藤原委員, 斎藤委員, 飯野委員, 渡部委員, 齊藤委員, 高橋委員
欠席委員	渡邊委員, 佐々木委員
事務局	観光部長, 観光部次長, 観光企画課長, 観光誘致課長, 観光振興課長, 国際観光課長

1. 開会

開会(事務局)	開会
開会挨拶(部長)	挨拶
開会挨拶(座長)	挨拶

2. 議題

(1) 報告事項

①平成30年度(2018年度) 来函観光入込客数推計	資料に沿って説明 ・資料1 平成30年度(2018年度)来函観光入込客数推計
委員意見	特になし
②令和元年度(2019年度) 主な観光施策予算(補正)	資料に沿って説明 ・当日配布1 令和元年度(2019年度)主な観光施策予算(補正)
委員意見	特になし
③函館市観光基本計画 中間評価について	資料に沿って説明 ・当日配布2 函館市観光基本計画中間評価について ・当日配布3 函館市観光基本計画中間評価スキーム ・当日配布4 函館市観光基本計画(施策および具体的取り組み)委員評価について
委員意見 (奥平座長)	委員評価の提出日については, 少々日程が厳しいのではないかと感じた。

(事務局)	もしよろしければ1週間ほど延ばさせていただき、7月10日水曜日までではいかがか。
(奥平座長)	7月10日水曜日までに提出ということでよろしいか。 【一同了承】
(池ノ上委員)	委員評価の方法について、観光基本計画の策定から5年が経過し環境も変わったため、新たに必要もしくは今後は必要ではないといった変更に対する意見がある場合はどのようにすれば良いか。
(事務局)	そのような部分があれば、中間評価報告書の中で新たな取組みが求められるという記載で、観光基本計画の中で取組むべきではないかという答申を頂いたという整理で、報告書の中にご意見として記載する形としたい。様式は問わない。 5年後の観光基本計画の見直しの際は、計画期間がどのような形が望ましいのかも含めた中で、皆様のご意見等を踏まえて見直しの作業を進めていきたいと思う。
(奥平座長)	観光基本計画に書かれていないが更に取組んだ方が良いのではないかとといったご意見があれば、積極的に出すことも必要ではないかと思う。
③その他	特になし

(2) 今後の観光振興施策に対する意見交換

(斎藤委員)	昨年度の観光入込客数は、9月の災害が無ければ、観光基本計画の観光入込客数550万人という目標を恐らく達成しているのだろうという思いがある。インバウンドも右肩上がりになっているが、策定から5年を経過した観光基本計画の目標値は変更するものなのか。
(奥平座長)	今回は目標値の見直しをしない。残りの計画期間である5年間は、現在の計画の目標値が達成されたかを見ていく。
(斎藤委員)	現在の観光基本計画が策定された5年前は、函館にホテルがこんなに増えると想定していなかったと思う。稼働率を考えても600万人とい

	<p>う数字を想定して行動して良いのではないかと思う。そのような状況の変化を次回の観光基本計画に盛り込むことも必要だと思う。</p> <p>次年度の主な観光施策予算（補正）にあるはこだてひかりのガーデンは、本年2月に当青年部の事業でも担当し、元町で開催した。インバウンドの方も結構いらっしゃり、チューブスライダーを少しだけ滑りたいというニーズが結構あった。市内の様々な所に気軽に滑れるような場所があれば、インバウンドの方も喜ぶのではないかと感じた。</p>
(齊藤委員)	<p>私は留学生の受入れを中心に仕事をしている。函館でも雪や冬のイベントがあると留学生に発信できる良いコンテンツになるので、湯の川冬のイベントは非常に良い取組みだと思った。</p> <p>クルーズ船入港時には、市内の交通機関が分かりにくいという声が多かった。また、函館市観光動向調査を受託しており、対面調査をしている際には、観光客からバスが分かりにくかったという声や市電に乗らないで行くエリアにはどう行くのが観光客にとって簡単で分かりやすく、時間をロスしないで過ごせるかなどの問い合わせがあり、その辺りが課題だと感じている。</p>
(渡部委員)	<p>箱館会の5月の速報値について説明する。ゴールデンウィークは10連休ということで非常に良かったが、最終着地が良くないところが多く、ゴールデンウィークの反動や混雑を避けたいといったお客様の傾向があった。</p> <p>物販・飲食に関しても、後半については、宿泊施設と同じく悪かったものの、それをカバーできるほどゴールデンウィークは高水準であったというお話もいただいた。</p> <p>インバウンドの動向は各社様々だが、良くなかったというところもある。その要因としては旅行商品の高騰や観光地の混雑の予想から、特に東アジアの市場の需要が抑えられたと聞いた。</p> <p>民泊の法が施行されてから1年が経ち、前回の会議でも話したが、路線バスでは意外な停留所で降りている方が非常に多く、シャトルバスのほかにも観光客があまり乗らないような路線に乗る方が非常に多かった。</p> <p>駅前の案内所は、ゴールデンウィークは例年桜の問い合わせが多いが、本年は5月中旬から下旬にかけても松前の問い合わせが多かったと聞いている。また、5月は特に他の月と比べると事前に旅行計画を立てて来る傾向が他の月よりは多いと聞いている。そのほか、言葉が通じな</p>

<p>(飯野委員)</p>	<p>い、キャッシュレス、W i - F i , この3つを何とかして欲しいという声が大勢出ている。</p> <p>函館ホテル旅館組合の立場でここにいるが、ゴールデンウィークは忙しかったものの、5月全体だとむしろマイナスだという声もあった。しかし、航空機などを見ると決して閑散としてはいない。これはホテルが増えてきた影響が徐々に出てきていて、なおかつどこも勝っていない状況となっているのではないかと。</p> <p>決して数字で見えてくるものは悪くないのに、ホテル自体は何となく全体が目減りしている印象がある。誘客・集客・接客という3つの言葉があり、最後にあるのが接客だが、少し背筋が寒くなる程度の入りであった。</p> <p>観光入込客数は増えたものの何割くらいにふっこう割が寄与しているのか。ふっこう割はほとんど外国の方には利用されなかった。ということは、インバウンドの数が増えていることはこれまでの地道なプロモーションなどの積み重ねの結果なのではないかと思っている。その辺りももう少し細かく見ていかなければならないのではないかと。</p> <p>民泊について、気付いたら増えているように感じる。感触としては、外国の方は非常に情報収集をされるため、私たちのホテルでは今まで1日1件も無かったトイレだけの利用や場所だけの問合わせが増えた。民泊に泊まられている方が多い印象はある。見えない数字に脅かされているのが宿泊業界である。</p>
<p>(高橋委員)</p>	<p>ガイドの立場で話をする。我々の団体は、依頼を受けてガイドをする仕組みで運営している。昨年度から本年度にかけて外国のクルーズ船の寄港が非常に増えた。それに伴い、我々も非常に多くの依頼を頂き嬉しいが、依頼に応えられずお断りをしてしまうという事態も出てきている。若松ふ頭の暫定供用が開始して経済的に効果があると思うが、おもてなしに関わるガイドとしては少し対応が大変な状況になっている。</p> <p>ガイドをしながら函館の観光を見ていて思うことが何点かあり、言葉遣いや歓迎の姿勢が時として少し足りないのではないかと。</p> <p>外国語表示については大分良くなってきているが、まだ足りないと感じる。</p> <p>バスの乗り方については、特に五稜郭方面は大幅に増便され、観光客に非常に喜ばれている。そのようなおもてなしの部分で、函館をもう少し良い方向に持っていけないかと感じている。</p>

	<p>市民レベルで歓迎するという意識が少し薄いのかもしれない。教育現場も含め、函館の観光について啓蒙していくことも重要ではないかと思う。</p> <p>小さな頃から身近な場所を観光して知ることにより、成長した時に地元の良いさをアピールしてもらえることに繋がるのではないかと考えている。そういうレベルで貢献していけるのがガイドだと感じている。</p> <p>(池ノ上委員) 観光客と生活者とを分離し別物として扱う、あるいは観光地と生活する場所を分離して扱うのが函館の一つの特徴だと言う知人がいる。その彼とどこに線が引けるのかは難しいと議論している。例えば、函館市民が元町へ行くと観光客になるのか。</p> <p>しかし、なぜか観光はいわゆる観光の話で終始しがちです。観光が大切だ、いや生活が大切だといった対立の構図になりがちで、先入観で分けてしまっていることが、結局は様々な矛盾を生み出している原因であるのではないかと思う。観光が重要だと言う人も生活が重要だと言う人もおり、どちらもそのとおりでと思うが、一緒ではないかという気がしている。</p> <p>2030年に北海道新幹線が札幌まで延伸するにあたり、函館に人が訪れなくなるのではないかという予測がある一方、札幌から函館に来やすくなるので今以上に来るのではないかという予測もある。現在、札幌と小樽は1時間ほどで結ばれている。10年後には札幌と函館の間で同じことが起こる。小樽は日帰り率が高く、札幌にほとんど宿泊しており、人口も減少している。そのような道をもしかすると函館も辿ってしまうのかもしれない。函館の観光とまちづくりとか地域をどう経営していくかを考えた時、函館はどう対応したら今後生きていけるかを考えている。</p>
<p>(角委員)</p>	<p>公立はこだて未来大学は留学生が増えている。函館に住んでいる人たちがどのくらい観光しているかという観点でも見られたら良いと思った。しかし、留学生に限らず身近な学生を見ていてもあまり観光をしていない。池ノ上委員のお話のとおり、生活圏と観光圏が分離されているように感じる。高橋委員のお話とも合致するが、函館に住んでいる人はどこに何があって、どれだけ価値があるかをほとんど知らないまま生活していることが気になる。極端な言い方かもしれないが、滞在日数が1日、2日と短い観光客のことばかりを考えるのではなく、生活者のことも考えて取組めば、底上げとか導きが付くのではないかと思う。</p>

<p>(藤原委員)</p>	<p>前回の会議でお知らせしたとおり、ベジタリアンとムスリムのためのガイドマップをリリースした。マップに掲載されている飲食店の方々へ取材をしたところ、好評のようだ。マップを維持し、同時に皆様の教育もするため、函館大学で年間4回ほど飲食店向けの市民講座を計画している。食のマイノリティなので、どうしても皆様分からなかったり、煩わしいと思うことがあると思う。そういった先入観を払拭する意味合いでも良いと思う。</p> <p>また、マップの日本語版が無いかという声を多く頂き、対応を考えている。</p> <p>MICEへの貢献は大学でもできると思う。7月18日木曜日から20日土曜日に中国、韓国、日本の学者や実務をしている方々を招き、東アジア共通食品安全基準の形成に向けてという会議を開催する予定である。合計約30名がいらっしや、3泊ほど宿泊をするので、MICEへの貢献ができると思う。</p> <p>宿泊日数を増やすためには、新たなコンテンツ作りが必要だと思う。函館市の平均宿泊数は1.23泊である。オーストラリアのタスマニア島は、北海道と気候条件が非常に似ていて冬も寒く、観光シーズンが1年の約半分しかないが、平均宿泊日数は1.7泊である。なぜ1.7泊もあるかということ、10年前から自転車周遊道を整備しており、観光客は全土を自転車でコンプリートしたいため宿泊する。道南でも、自転車や馬などを活用し、何かをコンプリートすることで達成感を覚えるようなコンテンツ作りができれば良いと思っている。</p>
<p>(奥平座長)</p>	<p>私たちの感覚だと、函館の冬は雪もあまり降らず、中途半端な気もする。かつては函館青年会議所が中心となって冬に五稜郭公園で祭りを開催していた。すべり台もあり旅行者も参加していたが、現在はそのようなイベントは無く、勿体ないと感じる。そういうところをどうしていくかというのは考えていかなければいけないと思う。例えば、香雪園にあるゴルフ場は冬にはスキー場になりそりすべりができるので、もう少し発信しても良いと思う。</p>
<p>(事務局：観光部長)</p>	<p>観光部の各担当課長より委員の皆様からいただいたご意見に対する感想等を申し上げたい。</p>
<p>(事務局：観光振興課長)</p>	<p>観光振興課では、主に市内のイベント関係の対応や年中イベントで賑わうまちを目指したフェスティバルタウンの形成に取り組んでいるほか、</p>

	<p>ソフト系の観光資源開発を担当している。</p> <p>藤原委員のお話にあったサイクルツーリズムは、協議会が設立されて動きも徐々に出てきている。</p> <p>齋藤委員のお話にあった冬に雪のすべり台を気軽に滑りたいというニーズについては、雪の問題もある。奥平座長のお話にあった五稜郭公園の冬の祭りは、年によって雪が少ない、設置した雪像などが気温の高さにより崩れてしまうということなどが繰り返されたため、雪や氷を使ったイベントを断念してきた経緯はある。今回の補正予算に計上した湯の川冬のイベントや2月に函館商工会議所青年部と開催させていただいたはこだてひかりのガーデンは、雪や氷に頼らず冬の観光客数を底上げできないかということで光をテーマにしたイベントとしている。函館は雪に恵まれない地域なので、状況を見て、光をテーマに上手く実施していけるかを検証しながら進めていきたいと思う。合わせて、気軽な雪のすべり台についても検討したいと思う。安全管理の懸念もあるものの、そのような場は提供する必要があるのではないかとと思うので、検討していければと思う。</p>
(事務局：観光誘致課長)	<p>観光誘致課では、主に国内の誘客や広域観光を担当している。委員の皆様のお話の中で最も恐ろしいと思ったことは、飯野委員の現在、どのホテルも勝っておらず、新規ホテルが増えた場合に立ち行かなくなってしまう可能性があるという話である。函館に多くの経済効果が生まれてほしいという意識で活動している当課にとっては最も大きな問題である。</p>
(事務局：国際観光課長)	<p>国際観光課では、主に外国人観光客の誘致を担当している。藤原委員からコンテンツ作りの例を説明いただいた。外国人観光客の嗜好も多様化しており、今回の補正予算に、当課が担当をするインバウンド向けコト消費発掘・拡大事業を計上している。外国人の嗜好を調査し商品化し、様々なメニューを体験していただける環境を整え、少しでも長く函館に滞在していただき、消費拡大に繋がりたいと考えている。函館は1泊だけでなく2泊、3泊できる観光地だというイメージを作り、売り込むことで、直行便がない国でも、札幌や東京から函館に足を運んでいただく機会にも繋がると思う。地道に取り組んでいきたいと考えている。</p>
(事務局：観光部次長)	<p>池ノ上委員の住民と観光客の調和やその両立をどう考えていくのかというお話が非常に印象深かった。市としても、例えば補助などの部分で</p>

	<p>市民も観光客も区分けなく対応しなければいけないのではないかと考えている。そのように考えたとき、観光客に対して市の税金のみを投入していくのは厳しい状況にあるのではないかと思う。観光客のためのまちづくりは観光客の皆様にも協力していただかなければいけないのではないかと改めて感じた。</p>
(事務局：観光部長)	<p>7月7日日曜日に函館マラソンが開催される際、インフォメーションデスクに初めて自動翻訳機を導入する予定である。観光案内を含めて様々なお知らせをするために活用したいと思っている。一般の方も気軽に活用していただけるよう、精度などを確認したいと思っている。</p> <p>角委員からは、生活圏と観光客向けのエリアのお話を頂いた。SNSを見ると、最近は外国人の方も日本人の方も私たちがあまり知らないような場所に訪れている。SNSでアップされている画像を整理し、発信方法を工夫しながら、私たちがあまり知らない場所も観光スポットとして紹介し、様々な人に行ってみたいと思われるような見せ方をしていきたいと思っている。</p> <p>渡部委員からは、5月の松前のお問合わせが多かったというお話を頂いた。広域観光として、道南全体で宿泊日数を増やせることは非常に喜ばしいと思った。また、キャッシュレス決済で気軽に買物をしたり、体験ができる環境の整備もサポートしていかねばいけないと思っている。</p>
(奥平座長)	<p>ただいまの事務局からの発言を受けて改めて委員の皆様からもご意見を頂きたい。</p>
(飯野委員)	<p>持続可能な観光地経営なのか、持続可能な地域社会を通じて観光をどのように整備するのかは、恐らく似て非なるものだと思う。最も重要なのは地域社会をどのように持続可能にしていくか、その手法の一つとして観光業があると思う。まずは函館をどう持続可能なまちとして考えるかが必要なのかと思う。</p> <p>奥平座長や高橋委員から函館の人のおもてなしが課題だとお話があったが、函館の人全員が愛想がない訳ではないものの、どうしてもマイナス面が目立ってしまうことが多い。</p> <p>そのほか、地域社会を持続可能にしていくためにはどうしたら良いのかを私も考えていかないといけないと思っている。評価の基準をそこにどれだけのお金を投入して何人来てとすると、もちろんその時だけで見</p>

(池ノ上委員)	<p>れば成功ではあるけれども、結果的に観光は先細りになる可能性がある。</p> <p>観光基本計画の目標値で観光客の満足度があり、平成27年度は約81%だったのが、平成29年度は65%となっているのが気になっている。観光業で持続可能な社会を作る必要があると思う。だからこそ、フェスティバルタウン構想も地元の人が楽しいから外から来た人も楽しめるものとなる。その部分を取り違えてしまい、他都市の事例を函館流にアレンジしてしまうのは良くないが、函館は他都市の事例を真似しようという機運は全くないので良いことだと思っている。</p> <p>現在様々なことに取組まれているが、その場があることは、当たり前のように地元の方と函館に来る方が一緒に同じことを体感できる機会であるからこそ、積極的にその見せ方を工夫するのが大事なのかと思う。冬のすべり台のお話も、今なら写真映えするととても人気が出るかと思う。安全面や雪が無いなどのリスクはあると思うが、見せ方を工夫して呼び込むのが良いと思う。函館は観光地としての認知度は高いが、当たり前のように、地元の方と観光客の方が共有できるような見せ方をするのが大事なのかなと思った。</p> <p>あくまで全体、地域社会が活性化するための観光業、そのために業務をしていくのではと思った。</p> <p>函館をいかに持続可能にするか考えており、函館だからこそ観光を使ってSDGsを実現することが重要かと思う。今だからこそ全面に打ち出さなければいけないのではないかという思いがある。</p> <p>先ほどお話をした生活と観光を分ける市民側が溝を感じる要因の一つとして、経済波及効果を堅実に広げていくところが弱いのではないか。一次産業、二次産業、三次産業がどれだけ観光の恩恵を受けられているかを施策としてどう動かしていくか、あるいは民と連携してどう伸ばしていくかといった政策をきちんと作らなければいけないと思っている。具体的にどうするかは、方向論がいくつかある。例えば、新しいコンテンツを作ること、縄文文化などの様々な地域のストーリーなどに展開していくことで、今まで恩恵を受けていない人にも波及していくことが考えられる。</p> <p>まずは折角あるデータを基に、異業種間の意見交換といった、様々な業種の人たちが観光に関わる機会、あるいはそこに投資したいと思ってもらえるような機会ができると良いと思う。</p> <p>そのほか、函館に必要だと思っていることは、いわゆるマーケティングというかデータをきちんと取ることである。ニーズは潜在化している</p>
---------	---

ものも含めて様々あると思うが、函館市で全て抑えている情報ではない。そういった函館での過ごし方をどうデータ化するかといった開発を含めて、しっかりとデータを集めなければいけないと思う。

ホテルの新規開業が続くことや民泊の普及などに対し、どう捉えてどう対応すれば良いかを頭で考えられないと、既存事業者や住民にとって不安要素にしかならないと思う。不安を解消することのほかに、函館は投資をして良いかどうか分からないまちだとよく言われる。観光面、あるいは函館での過ごし方の部分で、市民も含めどのような過ごし方をしているかが理解できると、そこでどのようなお金が発生するのかなどにも繋がっていく。このようなことがデータに基づいて検討できると良いと思っている。

もう一つは公民連携、いわゆるPPPである。官も民ももっとお互いに踏み込みながらできないかと思う。安易に役割分担で切り分けるよりは、良い形で連携ができると良いと思っている。本来、賑わいの創出のイベントは、住民や消費者の情報やニーズを多く持つ民間や中間的な組織で行う方が良い。安全管理の話になると、市ではこれ以上はできないということが出てくる。では民間事業者ができるかというところでもないもので、そういうものを繋いでいく、あるいは官と民が連携していく仕組みがあれば、様々なニーズやコンテンツ開発などへも広がると感じている。

ホテルの新規開業や民泊の話は、資本主義で自由競争の世界なので、規制はあまり意味がない。しかし、外部資本等によるフリーライダー（ただ乗り）は、長い年月をかけて創り上げてきた地域資源を収奪を招く虞がある。フリーライダーを防ぐために、宿泊税等によるお金の取り方を検討することが大切だ。例えば先ほど話した地域の過ごし方データを共有することで、フリーライダーも意欲的に地域活動に参加する、少なくともお金を出す機運になるかもしれない。まちにとって稼ぐだけ稼いで帰ってしまうことが無い状況を作るのは一つの手だと思う。それをPPPの仕組みで上手くできるのではないかと考えている。

(奥平座長)

分かりやすい官民連携の例としてクリスマスファンタジーが挙げられる。函館青年会議所が立ち上げ、実行委員会ができ、その後市が全面的に協力する形に切り替わり、現在まで官民連携のような形で続いている。このような組織を上手く活用しながら、協力関係を冬期限定ではなく通年型に切り替えていくのも一つの方法ではないか。

市内にあるコンテンツのお話もあったが、市内にはグリーンベルトが

	<p>たくさんあり、そこで地域の人たちが何かをすると、旅行者も加わって盛り上がることも、もしかしたら仕掛けとしてできるのではと思う。グリーンベルトは元々防火帯として作られており、いわゆる過去の遺産である。使われていない遺産がたくさんあるので、上手く活用できればと思う。</p> <p>その他に過去の遺産というと、現在、西部地区に文化的なホールは公民館しか無く、コンサートの開催が難しい。そこで、老朽化や耐震の問題もあるが、ニチロビルディングのホールを活用できるのではないかと。ウォーターフロントに近く、ホテル街の中にある場所でホールが使えるようになると、コンサートだけでなく、官民連携のシンポジウムのようなことも開催できるのではないかと。終了後は近くの飲食店に立ち寄ることもでき、経済効果も期待できる。西部地区には魅力的なものもたくさんあるが、生活者と観光者が両方使えるような施設が必要なかもしれない。グリーンベルトやホールのように様々なものがあるまちなかで、官民連携でそれらを活用できれば面白いことが企画でき、人が集まってくる、いわゆるフェスティバルタウンになるのかと思う。</p>
(高橋委員)	<p>五稜郭は、桜が非常に有名である。今日明日の問題ではないが、桜の樹齢がそろそろ危ないのではないかと心配している。このまま新たに植樹をしないでいると、枯れ出してくるのではないかと。藤棚も同様である。</p>
(池ノ上委員)	<p>手段のみで言うと、観光庁で出国税の財源があるという話がある。</p> <p>文化財保護法の改正もあり、観光を目的にすると、文化や自然に対して国の財源の充当がある。五稜郭は国の史跡なので、補助金の対象となる可能性は高い。</p>
(奥平座長)	<p>函館公園の桜も危ないのではないかとという話もあり、一体的に取り組んだ方が良い時期に来ているのではないかと。</p>
(斎藤委員)	<p>ロックバンドGLAYが緑の島でライブを開催した効果は非常に大きかったと思う。まちなかで大音量を出してクレームが来ないまちは恐らく函館だけだと思うので、緑の島を活用したい。</p> <p>そのほか、商工会議所青年部の全国会議などで担当者が集まる際によく話題に挙がる旅行口コミサイトがあり、このサイトの影響力は大きいようだ。</p>

3. 閉会

閉会（事務局）	
---------	--